

22 星空観察

肉眼や双眼鏡等で、星空を観察する活動です。

- ・四季の代表的な星座や明るい星をみることで、子どもたちの興味・関心を高めることができます。
- ・星座等の観察の仕方を学習し、月や星への興味・関心を高めることができます。
- ・星座にまつわる伝説や神話を話すことで、豊かな情操を養うことができます。



時 期	通 年	所要時間	30分～1時間	活動場所	星空テラス
対 象	小学生以上	人 数	50人程度（自然の家の道具で行う場合）		
準 備 物	自然の家で貸し出すもの		団体・個人で準備するもの		
	☐ 双眼鏡 20台 ☐ 天体望遠鏡 4台		☐ 懐中電灯 ☐ 関連学習に必要な用具、筆記用具等 ☐ 今日のほしぞら ※国立天文台ホームページより引用可能		
活動の手順	事前指導	1 活動場所の下見、引率者の役割分担をする。 ・危険箇所の確認、方位の確認 ・引率者の役割分担・・・グループに付く、危険箇所に立つ、救護 等 2 用具の準備 ・「今日のほしぞら」を印刷する。【国立天文台・暦計算室「今日のほしぞら」】ホームページ URL・ https://eco.mtk.nao.ac.jp/cgi-bin/koyomi/skymap.cgi ※団体で望遠鏡等を準備できる場合は持参しても構わない。 ※自然の家で貸し出すもの以外にも天体望遠鏡が必要な場合は、事前に「胎内自然天文館」（備考参照）に予約を入れ、借用することが可能。その際、出前講座として自然の家に持ってきてもらうことや天文館に行き観測ドームを利用可能。 ＜活動内容などは胎内自然天文館と要相談＞			
		1 活動の説明をする。 (1) 星空観察の楽しみやねらい (2) 星座にまつわる伝説や神話 2 活動開始 双眼鏡、天体望遠鏡、「今日の星空」を使っでの観察例 (1) 方角を知る。北の空を眺めて北極星を探す。 ・北斗七星から ・カシオペア座から (2) 足をしっかり開いてどっしり構えて双眼鏡での観察。 (3) 目印になる明るい星を見つける。 (4) 「今日のほしぞら」を見ながら、少しずつたどっていくようにする。 (5) 見つけたら、よく見てみよう。（長く見続けているとよく見えてくる。） (6) ときどき、双眼鏡から目を離し肉眼で見る。 ※双眼鏡で観察する場合、並んでいる子どもたちの横で「見えるか、どう、〇〇見えるだろう！はい次」など言わないで「どんなふうに、何が見える」など問いかけるなどの余裕を持って実施することが大切。			
	活動の実際	3 終了後、参加人数の確認をする。			
		事後	用具の返却		
備 考	1 胎内自然天文館（胎内市夏井 1251-7、TEL 0254-48-0150）；専門家からの説明を受けながらの観察や観測ドームで口径 60 センチ反射望遠鏡を利用することも可能。（自然の家に減免申請書を提出後に、事前に直接天文館にご相談ください。） 2 天文館まで自然の家から片道 30 分程度かかります。ただし、自然の家のバスは夜間の利用はできません。 3 自然の家所員は、指導に付きません。				